



血清中の総コレステロール濃度測定 の 勧告法

日本臨床化学会酵素・試薬専門委員会
〔血清コレステロール測定 の 勧告法「比較対照法」から
「実用基準法」への移行に関する研究〕プロジェクト

栢森裕三¹, 森下芳孝², 松本祐之³, 荻津直通⁴, 木澤仙次⁵, 前田悟司⁶,
増田詩織⁷, 吉田隆則⁸, 奈須正人⁹, 梅本雅夫¹⁰, 片山善章¹¹

¹九州大学病院検査部, ²三重大学医学部附属病院検査部, ³名古屋大学医学部附属病院検査部,

⁴藤田保健衛生大学短期大学医療情報技術科, ⁵愛知医科大学附属病院中央臨床検査部,

⁶岐阜大学医学部附属病院検査部, ⁷近畿大学医学部附属病院中央臨床検査部,

⁸日本生命済生会附属日生病院中央臨床検査部, ⁹独立行政法人 国立病院機構 京都医療センター研究検査科,

¹⁰HECTEFスタンダードレファレンスセンター, ¹¹近畿福祉大学(プロジェクト代表)

Recommended reference method for total cholesterol measurement in serum

Committee on Enzyme-Reagent, Japan Society of Clinical Chemistry (JSCC)

Yuzo Kayamori ^{1*}, Yoshitaka Morishita ², Hiroyuki Matsumoto ³, Naomichi Okitsu ⁴, Senji Kizawa ⁵,
Satoshi Maeda ⁶, Shiori Masuda ⁷, Takanori Yoshida ⁸, Masato Nasu ⁹, Masao Umemoto ¹⁰
and Yoshiaki Katayama ¹¹

1. 序文

本勧告法は血清中の総コレステロール濃度測定の実用基準法 (reference method) として日本臨床化学会の酵素・試薬専門委員会プロジェクト〔血清コレステロール測定 の 勧告法「比較対照法」から「実用基準法」への移行に関する研究〕によって作成された。

血清中の総コレステロールは高脂血症を診断する重要な項目であり, 近年増加しつつある冠動脈疾患をはじめとする成人病のリスクファクターとして広く測定されている^{1,2)}。総

コレステロール (total cholesterol) は, その治療指標として血清総コレステロール濃度を含めたガイドラインが日本動脈硬化学会, 高脂血症診療ガイドライン検討委員会によって示された³⁾。従来は高コレステロール血症の診断基準として220mg/dLであったのに対し, 200~240 mg/dLを20 mg/dLごとに危険因子の有無を考慮して, 食事指導と薬物投与を含む治療に分けることが提案された。このような状況の下では総コレステロール測定は更に正確度・精密度の向上が要求される。

測定法に関しては最近の遺伝子組換えを含